

■陸羯南 ジャーナリスト。“国民主義”の(日本)の社主・主筆として言論一筋に生き、正岡子規を世に出した。

くがかつなん

蕃書調所・・・1857＝ 生。弘前藩下級士族中田氏の出、

桜田門外変・1860＝ 3歳：

薩長同盟・・・1866＝ 9歳：

明治維新・・・1868＝11歳：

明治6年政変 1873＝16歳：東奥義塾をへて、
佐賀の乱・・・1874＝17歳：宮城師範学校に入る。

初の民間工場1875＝18歳：

三つの反乱・1876＝19歳：校長の措置に不満をいだき中退、上京して司法省法学校に入るが、

琉球処分・・・1879＝22歳：賄征伐に関連して、原敬らとともに退学する。

(青森新聞)、紋別製糖所に勤め、親戚の絶家を再興して陸姓になった後、

明治14年政変1881＝24歳：再び上京。

岩倉具視没・1883＝26歳：太政官文書局に入り、_内閣制創設とともに内閣官報局編輯課長となる。この年、正岡子規に会う。

秩父事件・・・1884＝27歳：結婚。この前後、井上毅らの知遇を得、

内閣発足・・・1885＝28歳：フランスの反革命主義者J. M. deメーストルの書物を「主権原論」の題で翻訳出版する。

初の対等条約1888＝31歳：***政府の条約改正と欧化政策に反対して辞職。谷干城らの援助を受けて{東京電報}を発刊し、同じ時に志賀重昂・三宅雪嶺らが創刊した政教社の雑誌{日本人}の“国粹主義”に呼応して、“国民主義”を唱える。**

帝国憲法発布1889＝32歳：***この新聞は改組されて{日本}となるが、たまたま漏洩した大隈重信外相の条約改正案批判を通して、羯南の名は一躍高まる。**

大本教・・・1892＝35歳：_正岡子規が日本新聞社に入社。

郡司千島探検1893＝36歳：

日清戦争始・1894＝37歳：

東邦協会、国家経済会、社会問題研究会、東亜同文会、国民同盟会などに参加。

田中正造直訴1901＝44歳：近衛篤磨に従い清・韓を視察するが、このころから近衛との関係が親密化、谷との関係が疎遠となる。

教科書疑獄・1902＝45歳：

日比谷公園・1903＝46歳：欧州を漫遊した。

日露戦争終・1905＝48歳：

満鉄発足・・・1906＝49歳：***病で新聞を譲るまで、{日本}の社主・主筆として言論一筋に生きて、**

韓国反日暴動1907＝50歳：**_没した。**